

ゴルディロックス経済の結末・・・？

「3匹のくま」

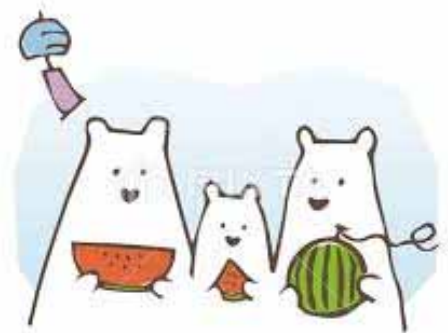
森で少女がクマの家に迷い込み、寒さと空腹のあまりテーブルに置いてあったスープを勝手に飲んでしまったという英国童話「3匹のくま」を覚えていますか？あの少女の名前が『ゴルディロックス』だと知る人は少ないかもしれません。少女ゴルディロックスは、テーブルにあった3つのスープを口に、1つ目は熱すぎる、2つ目はぬるすぎる、3つ目は熱すぎぬるすぎず、ちょうど良かったので飲み干してしまいます。

ゴルディロックス経済

最近よく耳にするゴルディロックス経済とは、ちょうど良い加減のスープを飲み干した少女ゴルディロックスにちなんで「熱すぎず、ぬるすぎず、ちょうど良い」いわゆる「インフレを起こすほど熱くなく、不況になるほど冷めていない、ほどよい理想的な景気」を指しています。「適温経済」と訳されることもあります。

1990年代中ごろから2000年代初頭までの米国経済を表す言葉として使われてきましたが、このところの世界経済を喩える言葉として再びよく聞かれるようになっていきます。

米国は、失業率が4.3%まで低下し、ほぼ完全雇用の状態といわれますがインフレは緩やかで過熱感はありません。米国の景気は良いのですが過熱もしていない、市場では緩やかな株高、債券高といったほどよく心地よい状態が続いています。



「ブル」と「ベア」

マーケットでは、強気のことを「ブル(雄牛)」、弱気のことを「ベア(クマ)」といたりしますよね。

童話には続きがあり、その結末には2つのバージョンが存在しています。

少女ゴルディロックスは寝室へ行き、3つ置いてあったベッドのうち、硬すぎず柔らかすぎず、大きすぎず小さすぎず、やはりちょうど良いベッドを選んで寝込んでしまいます。そこへクマの親子が帰ってきました。

バージョンその1「目を覚ました少女は慌てて森へ逃げましたとさ・・・」

バージョンその2「かわいそうに、少女はクマに食べられてしまいましたとさ・・・」

とにかくいずれのバージョンでもクマは戻ってくるようです。

心地よい状態が未永く続く事を願いつつも、ゴルディロックスに無防備な楽観は禁物です。

いずれ戻ってくる「ベア(弱気)」と鉢合わせしても上手く逃げられるように、備えと準備をお忘れなく。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。